第 2015-44 号

恵みと真理のニュース

2015 年 11 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 教会で奉仕してから信仰が成長し、祈りに答えられる楽しみを享受するようになりまし

私は幼稚部で教師として奉仕しています。以前を考えると今教会で子供達を教え見守るのは夢のような事です。子供の時から親をついて教会へ行きましたが、長い間信仰もなくただ教会に通いました。家の状況で多く引越しをして教会もよく移しました。日曜日だけ教会に行く生活をしながら真面目に生きれば良いと思いました。青少年になり教会は自分が行きたい時に行くと親に反抗もしました。
そうするうちに2004年軍隊に入隊してから初めて自分の信仰を振り返ってみて反省しました。慣れていない環境でとても寂しい時に神様を頼るようになり、信仰生活を通して神様が下さる慰めと勇気を得ました。社会にいるときには仕方なく礼拝をしたら、軍隊では平日にも熱心に礼拝を参席しながら信仰が育ちました。除隊した後も礼拝中心、教会中心で熱心に信仰生活すると決心しました。しかし、実際に学校を通ってアルバイトに熱中すると軍隊で決心をしたのを忘れて以前の生活で戻ってしまいました。軍隊で除隊した親戚の弟が青年の集いに共に行くのを勧めました。それで青年部に入って熱心に聖書勉強もして主のなかで交わりもして他の青年達から信仰のチャレンジを受けました。今まで私が何のため教会を通い礼拝を捧げたのか、イエスキリストを知り愛したのか反省しました。切ない心になり神様の御言葉の恵みを求めました。
親戚の弟が教会で幼年部の教師で奉仕しているのを聞いた母は私も教会学校で奉仕するように幼稚部を紹介してくださいました。うかと教会で奉仕をしました。始めは子供をたちを見守る事が下手でした。4歳から7歳までの児童達に聖書を教える事も難しいのに振付と賛美を教えるのは難しかったです。そして、今まで長く教会だけ通ったが真実に信仰生活をしなかったので恥ずかしい心で子供達の前で立つ勇気もなくて胆力もなかったです。　教師の職分をよく担えるため、まず神様は慰めと赦しを求めて聖霊に満たされるように切に祈りました。足りないので体で出来るものから熱心に行ないました。誠実に席を守り子供達と共に伝導士をついて熱心に振付も習い聖書も熱心に黙想しました。そうするうちに1年が過ぎて正教師になりはじめて子供達と共に笑い恵みある礼拝を捧げました。神様は足りなくて弱い私の祈りにも答えてくださり感謝して切ない心で期待と希望を大胆に神様に申し上げて、多様で豊かな救いを経験しました。そして教会で支え奉仕する生活を通して私の信仰が大きく成長しました。牧師の説教の御言葉もよく聞こえてどのように信仰生活するのが主の喜びになるのか真実な聖徒の態度などなど多くの事を感じ習うことができました。御言葉の恵みと真理で充満になり様々な悩みと問題が御言葉を聞くことによって解決し、恵みと能力で新しい力を得てもっと楽しく奉仕するようになりました。集まることに努めて先生と子供達と共に礼拝し祈りと賛美する喜びが溢れました。大学4年になる時に卒業の作品を作るため忙しい時少し教会の奉仕を休みましたが礼拝たけ捧げてすぐ学校に行かなければならなかったですが、まぶだにちらつく子供達が浮び教会学校によったら歓迎し争って私の胸に抱かれてかかる姿をみると愛らしくてとても幸せでした。
幼稚部の行事で録音と編集など音響に関連する事を担っていた私をよく見ていたGNTC人形劇のチーム長の勧めで人形劇団でも奉仕を始めました。私の専攻でもなかったし初めて接するプログラムなので下手でしたが先生達の助けと祈りで少しつづ発展して3年間担えることが出来ました。新しい人形劇の録音を終えて団員達と共に他の聖殿を回しながら人形劇をして恵みを受ける聖徒達の姿を見るとの私のこの小さい苦労が大きいやりがいになります。神様に感謝と栄光を捧げます。
私が教会で奉仕を初めて学校を卒業して本格的に社会生活を始めるときから小さいことから大きい事に至るまで神様は私の祈りに答えて下さいました。難しいことにであって決定的な選択をする時には“求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。”（マタイの福音書7：7）御言葉を信じて祈りました。初めて職場で認定をもらい楽しく働いたが会社の事情で給料をもらえなく経済的に大変になりました。幸いに他の会社に入る機会が出来ました。すると、通っていた会社を辞めるのが良いのか悩みました。新しい職場の面接を見た日がちょうど青年の修練会が始まる日でした。今まで一回も完全に参席出来ませんでしたが今回は三日間参席して神様の導きを願い祈りました。どんな道で導いてくださるにしても従順し熱心に奉仕すると決心し祈りました。神様の導きだと思って離職しました。その結果もっと安定的になり楽しい心で仕事をする事が出来て良い同僚に出会い、彼らの配慮で教会で忠実に奉仕することが出来ました。
私は教会で教会学校の教師で奉仕し神様の愛を誰よりも多く感じました。神様が愛で導き摂理してくださいました。自分が考えても信仰が驚くほど成長しました。伝導士の紹介で愛らしく信仰の配偶者に出会い結婚して父親にもなりました。子供が早く育って幼稚部で神様に礼拝し聖書勉強もしてきれいな体で神様を賛美し信仰が育つのを描きます。そして、恵みと真理教会の子供達がイエス様のようにに体も成長し神様と人々から愛を受け神様の大きい喜びになる真実な聖徒になるように祈ります。ハレルヤ！

［信仰コラム］ 氷の倉庫がない宝物倉庫

″…この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちは、さいわいである。時が近づいているからである。″(ヨハネの黙示録　1:1~3)

本来、アラスカは、ロシアの地だったが、ロシア皇帝が財政が窮屈に 1867 年わずか 720 万ドルで、米国に売却しました。 当時、米国の議会は、なんの使い道もない土地を莫大な金を渡して購入したとし国務長官シュウォドゥとジョンソン大統領を召喚して猛攻撃を浴びせられました。 ところがその後議会が調査団を派遣し、アラスカをいろいろな角度から調べてみたら金と白金が一杯で、豊かな漁場と鬱蒼とした森林があり、石油が無尽蔵埋蔵されていることを分かるようになりました。 議員たちは大統領を訪れて謝罪し、″アラスカは、氷の倉庫ではなく宝物倉庫です。 本当によく買いました。″とほめました。
非難と批判には二種類があります。 事実と符合する真実なのがあれば、偏見と無知によるものがあります。偏見と無知による非難と批判はいつかはそれが正しいと思わなかったというのが現われるようになります。非難して批判した人たちがその日には審判や恥じを受ける事になります。 幾多の人たちが有害または無価値なものと扱って非難して批判することの中で、事実関係はその有益と価値をとうてい言い尽くすことが難しいのについて説明します。
第一に、イエス・キリストを信じる信頼です
多くの人がイエス・キリストを信じている信念の意味と価値を知らず、福音を排斥します。 キリスト人に対して否定的な見方を持って批判します。 このような人たちが一般的に持っている先入観があります。キリスト教を他の宗教と大同小異に思っています。また、キリスト教人を特に独善的だと思っています。そしてキリスト教人の中で悪い行為を犯した事例でキリスト教そのものを彼のようなものと思っています。このような認識は偏見と無知に基づくものです。
このような偏見と無知が除去されるためには福音を聞くようにしなければなりません。 誰でもイエス・キリストを信じ、キリストに対する信頼の意味と価値を知れば、感激するようになり、永遠にその信頼の中で暮らすようになります。 ″あなたがたがキリスト・イエスにあるのは、神によるのである。キリストは神に立てられて、わたしたちの知恵となり、議と聖とあがないとになられたのである。″(コリント人への第一の手紙　1:30)という言葉の中にイエス・キリストを信じている信念の真の意味と価値がこめられています。これはこの世の何物とも比較することができず、変えることのできないものです。
第二に、イエス・キリストに向けた献身と手間です。聖徒らが神様に仕えるのにとても多くの時間と物質を申し上げると非難し、批判する人達がいます。 甚だしくは自分がキリスト人と言う人の中にもこのような誤った認識を持っている人がいます。 このような非難と批判は偏見と無知に基づくものです。 神様に仕えるために、私たちがどんなに多くのことを申し上げるとしてもあまりにもすることがなれません。 真実の聖徒は神様に捧げる甲斐と喜びを知っています。神様のことに力を入れる者にくださる空での賞をもらうことを希望します。 ″だから愛する兄弟たちよ。固く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはないと、あなたがたは知っているからである。″(コリント人への第一の手紙　15:58)″　″見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。″(ヨハネの黙示録 22:12)
神様に仕え、物質を差し上げて献身する意味と価値を知っている成都は決して無駄に有するものと歳月を浪費することができません。
皆さんの中にも過去にはイエス・キリストを信じることについてその意味と価値を全くわからなかったし、キリスト人について、否定的な見方を持って判断して逼迫しており、キリストに仕えると情熱的に集まってあげる人を見るとき、いたずらに浪費することでだけ見てきた方々がいるのです。 しかし、イエス・キリストを信じている今は、以前のそのような判断が、偏見と無知のせいであることを知ったのです。 私たちの周りにはイエス・キリストを信じることと注意に献身することを非難して逼迫する彼らがたくさんいます。このような人たちが実状を悟るようになれるようにお祈りして忍耐してください。 着実に伝道してください。
「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

悲しみを治める秘訣

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

この世の中で悲しみを経験しなくて生きて行くことができる人は誰もいないです。 聖書の創世記 4 章には人類の歴史上の最初の殺人事件が記録されています。 カインが弟アベルを野で呼び出して殺した事件です。 この事によってアダムとエバが悲しみの涙を流した以後で世の中には悲しいことが絶えず起こっています。詩編に見ればモセは言うのを “われらのよわいは七十年にすぎません。あるいは健やかであっても八十年でしょう。しかしその一生はただ、ほねおりと悩みであって、その過ぎゆくことは速く、われらは飛び去るのです。”（詩篇 90:10）しました。 失敗、欠乏、喪失、別離、疏外、逼迫、疾苦などが悲しみの原因です。悲しみが深くなるとか悲哀の感情が長期間持続すれば精神と肉体が衰弱するようになって病むようになります。 疾病に対する抵抗力も減少されます。 極限の悲しみは心を混迷させて眼力と判断力を失くさせます。 聖書は私たちにいろいろ悲しみに対して賢くて適切に対処する秘訣を教えています。 その知識と知恵をよく見ます。 誰も一生の間いろいろの悲しみを経験するようになるがしかし悲しみによる打撃と損傷を受けなければならない理由はないです。悲しみを速く乗り越える道があります。

第一、神様は私たちが当たる悲しい事がすべて分かっていらっしゃって乗り越える能力も与えます。

これを信じなければなりません。 そしてその能力を求めなければなりません。
宗教改革者マルチンルターの妻は夫が当面したことによって憂鬱になれば賢く慰めて励ましました。 ところである日は妻の真心のこもった慰労と激励にもかかわらず憂鬱な心を治めることができなかったです。 彼は憂鬱な気持ちを晴らすために旅行をしました。 しかし彼は発つ時と同様に憂鬱な顔をして家に帰って来ました。 あの時彼を迎えに出た妻が喪服を着て涙に濡れて言いました。 “私たちの神様は死んだようです。 それで私がこんなに喪服を着たんです。” 妻の言葉をきいたルターは心の中に深く悔やんで “あなたの言葉の通り私は本当に出たらめな罪を犯しました。神様がないことのように行動しました” と言いました。 彼は憂鬱で悲しい感情を乗り越えました。

第二、変更されることができないことで確認されたことは神様のみ旨に分かって収容して順応しなければなりません。 これは神様の主権を認める態度です。

タビテの生涯にあった一事件はタビテが神様の主権を収容して順応する態度をはっきりと見せてくれます。 タビテがバッセバを通じて生んだ子供が病気になりました。 タビテは子供のために禁食して祈りながら夜の中に地に伏せていました。 信僕がタビテを気づかって起こそうとしてもきかなかったです。 七日ぶりに子供が死にました。 タビテの信僕は恐ろしがってこの事実を知らせることができなかったです。 タビテは信僕の態度を見て子供が死んだのを悟って信僕に確認質問をしました。 信僕がありのまま答えました。 するとタビテが地から起きて身を洗って油をつけて衣服を着替えてエホバの前に入って行って敬排しました。 そして宮に帰って来て食べ物をよいを指示して食べ物を食べました。 信僕が奇妙に思ってタビテ王にその理由を尋ねました。 するとタビテが答えました。 “子供が生きだ時に私が禁食してもしエホバが私を可愛想に思って子供をいかしてくださるのか誰が分かるか? このように思ったからである。しかし今は彼が死んだからどうして禁食するか? 私が彼をまた帰って来るようができるのか? 私は彼に行くが彼は 私に帰って来ることができないだろう。” タビテは最善をつくして神様のあわれみの心を切に求めました。 そしてタビテは神様の最終決定を収容して順応しました。 神様の絶対主権による決定を収容して順応するようになればどんな悲しみも速く乗り越えるようになります。歳月が経ってみれば、あるいは天国に入れば私たちが神様の主権的決定に順応したのがまことに上手な事であるということを確実に分かるようになるでしょう。

第三、現実にだけ泥まずに信仰の目で遠く眺めなければなりません。

ヤゴブの十一番目の息子であるヨセフは父から特別な愛を受けました。 これによって兄たちからに妬みの対象になりました。 そしてヨセフが二回も奇妙な夢を見たが兄たちが皆ヨセフを奉ずる内容の夢でした。 ヨセフがこの夢を兄たちに口に出したことによってもっと嫌われるようになりました。 ある日ヨセフがお父さんのおつかいで兄たちが羊を飼う所に訪ねました。 兄たちはヨセフを殺そうと思ってから通る商人に売ってしまいました。 彼らはヨセフの服に山羊の血を濡らした後その服をヤゴブに見えました。 ヤゴブはその服を見てヨセフが獣に殺されたと思って多くの日の間に悲しくて痛かったです。 ところで実際にヨセフは死んだのではなくエジプトに奴隷に売られたのです。ヨセフは神様の摂理なさることで結局エジプトの総理になりました。 大飢饉の時にお父さんと兄弟の家族を皆エジプトに招待してエジプト王が下さった油っこいゴセン地で牧畜ができさせました。 人は遠く眺めることができないから不必要な悩みと悲しみと懸念と恐れを持つようになります。 もしヤゴブがヨセフが話した夢の意味を正確に理解したらそのように極限の悲しみを持って歎息するはずはない。
聖徒はヨセフが見た夢よりもっと確かな未来に経験するようになることが分かっています。イエスキリストにあって許諾された幾多の幸せの約束があります。 患難が福になって苦難が光栄になります。 “なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。”（コリント人への第二の手紙 4:17）という約束があります。 “こうして、あなたがたの信仰はためされて、火で精錬されても朽ちる外はない金よりもはるかに尊いことが明らかにされ、イエス・キリストの現れるとき、さんびと栄光とほまれとに変るであろう。”（ペテロの第一の手紙，1:7）は約束もあります。 逼迫を受ければ天国で大きい賞を受けるようになります。 “わたしのために人々があなたがたをののしり、また迫害し、あなたがたに対し偽って様々の悪口を言う時には、あなたがたは、さいわいである。 ”喜び、よろこべ、天においてあなたがたの受ける報いは大きい。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。”（マタイによる福音書，5:11,12）という約束があります。 聖徒は死にも所望があります。 “兄弟たちよ。眠っている人々については、無知でいてもらいたくない。望みを持たない外の人々のように、あなたがたが悲しむことのないためである。”（テサロニケ人への第一の手紙，4 :13） としました。 その理由がこんなに記録されました。 “すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。だから、あなたがたは、これらの言葉をもって互に慰め合いなさい。”（テサロニケ人への第一の手紙，4 :16～18）. 聖徒はこのように驚くべきで燦爛たる約束を受けました。信仰にこの約束を通じて眺めれば悲しみが消えて喜びを持つようになります。

第四、悲しみが多くの世を渡る私たちを慰めてくださろうと復活昇天なさったキリストが聖霊様を送ってくださったから聖霊様に慰労を求めなければなりません。

イエスキリストが約束するのを “わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。それは真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。”（ヨハネによる福音書 14 :16,17） しました。 果して約束したとおり聖霊が天から降りました。 聖霊充満する弟子と聖徒は逼迫と患難の中でも聖霊様の慰労で喜びがあふれました。 聖霊様の慰労による喜びは世の中が与えることと違います。 世の中が与えることができずに奪うことができない神霊な喜びです。 私たち主イエス様の喜びです。
イエス様は私たちが経験するすべての悲しみを喜びに変化させるためにゲッセマネ園で涙を流しながら泣きわめきました。 ヘブル人への手紙，5 章 7 節に記録されるのを “キリストは、その肉の生活の時には、激しい叫びと涙とをもって、ご自分を死から救う力のあるかたに、祈と願いとをささげ、そして、その深い信仰のゆえに聞きいれられたのである。” と言いました。 イエスキリストがあった苦難には悲しみのあがないが含まれています。 イザヤ 53 章 4 節に “まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。“ 詩編 30 編に記録されるのを “その怒りはただつかのまで、その恵みはいのちのかぎり長いからである。夜はよもすがら泣きかなしんでも、朝と共に喜びが来る。”（詩編 30:5）、“主が私の悲しみを変わって踊ることにいいようにして私のベオッをむいて喜びで帯ティウショッナである”（詩編 30:11） しました。

聖徒の皆さんは私たちの悲しみをあがないした主イエスキリストの恵みを思うので心に侵透する悲しみを効果的に治めて日々に嬉しい心で生きて行くように願いします。